

# 宗岡二中だより 6月号



令和4年6月1日

自ら学び考える生徒  
学校教育目標：心豊かな優しい生徒  
明るく元気な生徒



大縄跳び 一致団結

## ヤマアラシのジレンマ

校長 中平 仁

第41回体育祭が無事終了しました。当初の予定が天候不良により順延となり、平日の開催となりましたが、多くの保護者に御来校いただきました。ありがとうございました。どのクラスも、みんなで協力して頑張った姿が印象的でした。仲間と協力する大切さを学んだのではないのでしょうか。体育祭をきっかけにクラスのきずなも深まったことでしょう。

むかしむかし、あるところに2匹のヤマアラシが会ってお友達になりました。その日はとても寒い日だったので、2匹のヤマアラシは近づいてお互いの体温で暖まろうとしました。しかし、お互いに近づくと、相手の背中に生えているハリが刺さって、痛くて痛くて仕方ありません。そこで、あわてて離れてみましたが、それだと寒くて耐えられそうにありません。

2匹のヤマアラシは、近づいては相手のハリで痛い思いをし、離れては寒さに凍えるということを繰り返していました。これではいつまでたっても落ち着かないと、2匹は協力し合って、ついにハリの痛みをガマンでき、お互いのぬくもりで暖かく過ごせる距離を探し当てました。その後、2匹のヤマアラシは、いつまでも仲良く暮らしました。



このお話はドイツのショーペンハウアーという哲学者が作った「ヤマアラシのジレンマ」というお話だそうです。

相手を傷つけない距離感を知ること、自分が傷つかない距離感を知ること、ちょうどよい距離感はある人によって異なること等、人間関係を考える上で大切な要素が詰まったお話です。その中で大切にしたいのは、くっついたり離れたりをしながら、悩んで考えるということです。

生徒には、中学校生活の中で、相手のことを思い、共感しながら、より良い距離感をつかんでいく体験を行事や活動を通して、たくさん積み重ねてほしいと考えております。